

福智山
Mt. Fukuchiyama
900.6m



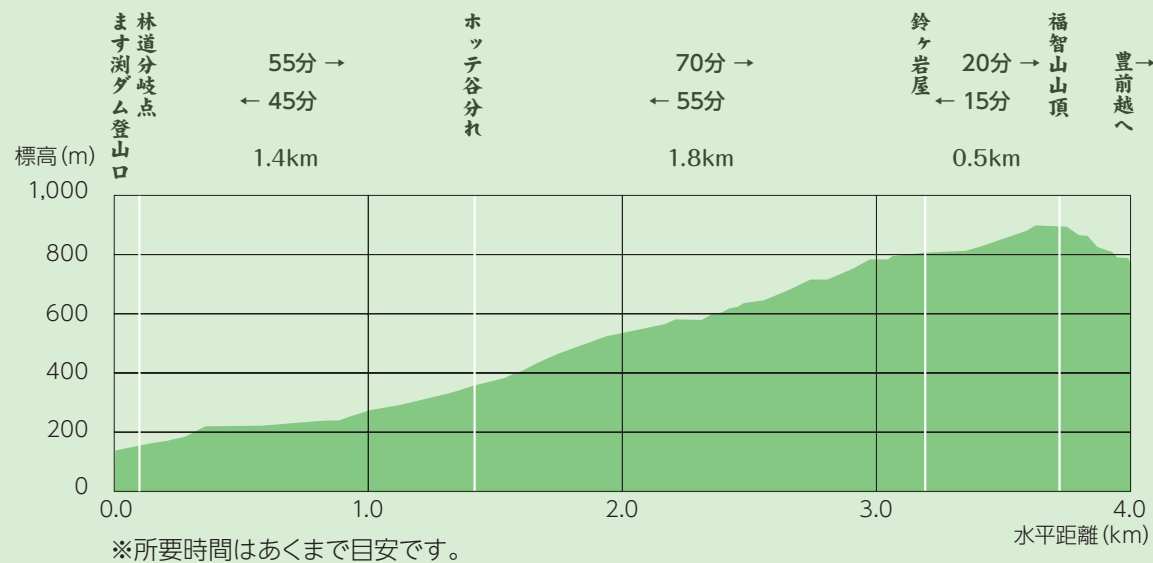
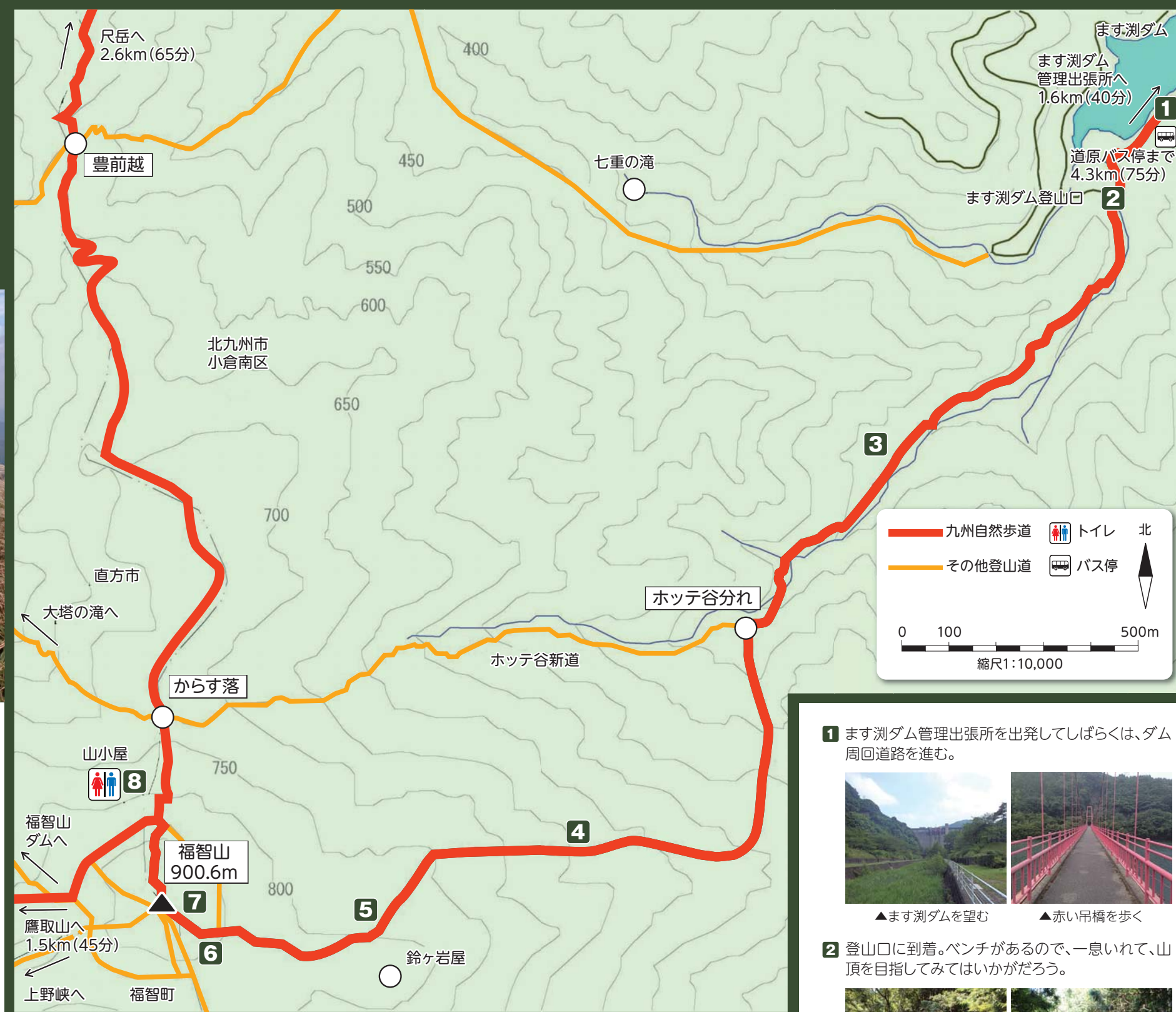
福智山山頂のススキ

福智山地は北九州市と筑豊盆地の間に位置し、南北に連なり、皿倉山から香春岳に至る山なみです。山地の最高峰である福智山では北九州市などの街並みが一望でき、眺望が楽しめます。

山頂部一帯ではススキが草原状に広がりを見せるとともに、周辺にはクマイザサも広く生育しており、山頂から望む草原は福智山ならではの風景となっています。ほかにも春にはノアザミやミツバツグリなど、秋にはキキョウやリンドウなどの花が見られ、草原の特色となっています。

山頂部下方には、アカガシを主体とした林が広がっており、その広がりには県内でも有数の面積を誇っています。そのほかにも、ヤブツバキ、ヒサカキ、シロダモなどを観察することができます。

福智山は、スギやヒノキの植林も進んでおり、人工林と天然林の両方を観察できるコースとなっています。



4 緑の映える時期、シデ林を通る尾根沿いの歩道は、緑のトンネルをくぐっている気分になさせてくれる。



緑のトンネルを抜けると、もうすぐ草原地帯が広がる

5 シデ林を抜けて山頂への歩道沿いには、ススキやクマイザサに隠れるように、ノアザミやリンドウなどの野草が咲いている。



▲ノアザミ ▲リンドウ

6 山頂付近になると草原帯になる。さえぎるものがなく、視界が広がり、山頂も見える。



▲山頂まであと少し ▲鈴ヶ岩屋と香春岳を望む

7 山頂はススキの草原が広がり、360度の大パノラマを楽しむことができる。北九州市や直方市を一望できる。



▲山頂の様子 ▲ススキの穂が波打つ



▲山頂から直方市を望む

8 山頂より少し下ったところに、山小屋、トイレが設置されている。木材チップを利用した自然循環型トイレ(バイオトイレ)であり、環境保全が図られている。



▲山小屋 ▲バイオトイレ

1 ます淵ダム管理出張所を出発してしばらくは、ダム周回道路を進む。



▲ます淵ダムを望む ▲赤い吊橋を歩く

2 登山口に到着。ベンチがあるので、一息いれて、山頂を目指してみたいはいかがだろう。



▲登山口到着。ベンチでひと休み ▲分岐点。右手の柵の方へ進みましょう

3 スギ林の中を進む。適切に管理された林には、適度に陽が入り、下層には様々な植物を見ることができる。



▲光が入るスギ林 ▲下層に生育するアオキ



アカガシ

◇ブナ科コナラ属
◇常緑広葉樹 高木性

ブナ科の常緑高木で、ドングリの仲間です。アカガシ林は暖帯林として北部九州を特色付ける林となっており、福岡県は、県内で最も広く分布している地域です。



ノアザミ

◇キク科アザミ属
◇多年草

北海道を除いた日本各地の山野に良く見ることが出来ます。4～7月に紅紫色の花を咲かせ、枝の先端に直立しています。球形でくも毛があることも特徴です。



ススキ

◇イネ科ススキ属
◇多年草

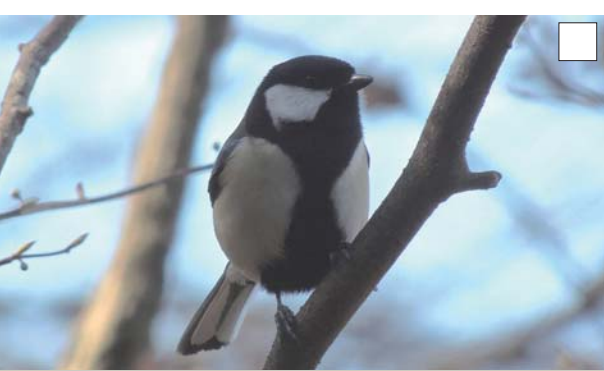
福岡県山頂一帯と南東の尾根は、ススキの草原となっています。日本各地の山野の日当たりの良い場所に普通に分布しています。「かや」の名でも呼ばれ、秋の七草の一つです。



リンドウ

◇リンドウ科リンドウ属
◇多年草

秋の山を代表する高さ20～100cmの多年草です。9～11月に青紫色の美しい花を咲かせます。筒部内面に茶褐色の斑点、裂片部には小白斑点があります。



シジュウカラ

◇スズメ目シジュウカラ科
◇鳥類 留鳥 全長約15cm

黒い頭と白い頬、のどから腹部に伸びるネクタイ状の黒色縦線が特徴です。平地から林の中に住み、「ツツピー、ツツピー」と鳴きます。

メモ欄（観察日時などを記録しましょう）

観察した生き物は写真右上の□にチェックを入れよう。



カワラナデシコ

◇ナデシコ科ナデシコ属
◇多年草

秋の七草の一つで、日当たりの良い山地草原に生えます。夏場に淡い紫色の花を咲かせます。花弁の先は深く切れ込み、先端は針状に尖っています。



ツリフネソウ

◇ツリフネソウ科ツリフネソウ属
◇一年草

草原の中の湿地、湿気の多い登山道沿いなどに広く分布し、高さ50～80cmになる一年草です。8～10月に紅紫色の花を咲かせます。花が帆掛け舟を釣り下げたような形をしていることから名前が付けました。



ハバヤマボクチ

◇キク科ヤマボクチ属
◇多年草

山地のススキ草原などに生える高さ100～200cmの多年草です。花期は10～11月で、頭花は径4～5cmあり、球形でくも毛がからんでいることが特徴です。



ゴジュウカラ

◇スズメ目ゴジュウカラ科
◇鳥類 留鳥 全長約14cm

青灰色の上面をしており、尾羽が短く、ずんぐりとした体型をしています。「フィフィフィ」とよく通る声で鳴きます。木の幹を上下に歩き、枝先の下側を沿って移動でき、「森の忍者」と呼ばれています。

九州自然歩道とは・・・

九州自然歩道は、愛称“やまびこさん”で親しまれており、九州を一周する総延長約2,900kmの長距離自然道です。自らの足で歩くことを通じて、四季折々の豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的として整備されています。

福岡県内コースは、北九州市の皿倉山から平尾台を通り、南下して英彦山に至ります。英彦山からコースは東西に分かれ、東はツクシヤクナゲの群生地である犬ヶ岳などを通り、大平山を経て大分県へ続いています。西はツゲの原生林がある古処山、1,300年の悠久の歴史を秘めた太宰府などを通り、基山を経て佐賀県へ通じる総延長261kmの道です。

福岡県内コースマップ
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyushusizenhodo-map.html>

みんなで守ろう 生物多様性

自然を愛する気持ち、守ろうとする気持ちは、身近な自然を知ること、ふれ合うことから始まります。希少な自然だけが守るべき自然ではありません。身近な自然も生物多様性の一部なのです。地図を片手に身近な自然にふれてみてください。

福岡県 環境部 自然環境課
TEL：092-643-3369 FAX：092-643-3357

平成 28年 3月発行



キキョウ

◇キキョウ科キキョウ属
◇多年草

日当たりの良い山地や野原などに生え、高さ50～100cmになります。夏場には鐘形で青紫色の大きな花を咲かせます。秋の七草の一つです。



ノコンギク

◇キク科シオン属
◇多年草

日当たりの良い山地草原や登山道に群生する多年草の野草です。8～11月に径2.5cm、青紫色の花を咲かせます。色の濃いものから淡いものまで変化に富んでいます。



アサギマダラ

◇チョウ目タテハチョウ科
◇昆虫類 前翅長約50～60mm

大型のチョウで、長距離を移動します。翅の内側が白色で、黒い翅脈が走っているのが特徴です。細かくはばたかずに、ふわふわと飛びます。



シロハラ

◇スズメ目ヒタキ科
◇鳥類 冬鳥 全長約25cm

日本で越冬する渡り鳥(冬鳥)です。低山の暗い林の中に住み、地上でエサをとりまわります。灰黒褐色から茶褐色の体で「キョッキョッキョッキョ」と飛び去りながら鳴きます。



ゲンノショウコ

◇フウロソウ科フウロソウ属
◇多年草

高さ30～50cmになる野草です。紅紫色や白色の花をつけます。昔から下痢止めに使われ、薬効がすみやかに現われることから名前が付けました。別名「ミコシグサ」とも言います。



ヤクシソウ

◇キク科オニタビラコ属
◇多年草

日当たりの良い山地の乾いた地面、岩上・崖地などに生えます。9～11月に1.5cmほどの黄色の花を咲かせ、枝先に多数につきます。上向きに咲き、開花後は下を向きます。



エナガ

◇スズメ目エナガ科
◇鳥類 留鳥 全長約13cm

体が小さく、くちばしが非常に短く、尾羽(柄)が極端に長いのが特徴です。「ジュリリ、ジュリリ」と鳴きます。柄杓に例えられたことが、和名の由来になっています。



トラツグミ

◇スズメ目ヒタキ科
◇鳥類 留鳥 全長約30cm

ツグミ類で最も大きく、黄褐色に、うろこのような黒い斑紋が特徴です。夜中に「ヒー、ヒー」という口笛に似た、ミステリアスな声で鳴きます。よく茂った広葉樹林にすみ、林内を低く飛びまわります。